

令和8年8月26日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）（図1）
対象作物：かんきつ、落葉果樹（なし、かき、キウイフルーツ等）

1 注意報の内容

- （1）発生が予想される地域： 県内全域
- （2）発生が予想される時期： 8月～10月
- （3）発生程度： 多
- （4）防除時期： 8月～10月

2 注意報発表の根拠

- （1）ヒノキ球果の着果量（指数）は、県平均7.9（平年4.5）と平年より多かった（過去10年で2番目）（図2）。なお、本虫は球果を餌として増殖するため、着果量が多いと新成虫の増殖は助長される。
- （2）8月上中旬のヒノキ球果における本虫の平均寄生数/10結果枝は、17.5頭（平年4.2頭、平年比4.2倍）と平年より多かった（図3a）。なお、8月における寄生数としては本年が1996年以降で過去最多であった（図3b）。また、地域別では、東部で20.8頭、中部で17.0頭、西部で16.1頭と、県内全域で発生が平年より多かった（データ略）。今後、ヒノキで増殖した本虫が球果を吸い尽くすとヒノキから離脱し、果樹園等に大量飛来するとともに果実を加害するおそれがある（図1）。
- （3）県内4か所の予察灯における8月1日～20日の合計誘殺数の平均は、1621頭（平年505頭、平年比3.2倍）と平年より多かった（図4）。なお、本虫の内訳は、チャバネアオカメムシが968頭（平年300頭）、ツヤアオカメムシが538頭（平年92.2頭）、クサギカメムシが115頭（平年113頭）であった。現時点で県内における多くの果樹園では本虫の飛来はみられていないが、予察灯への誘殺数が急増していることから、今後、本虫が果樹園等に大量飛来する可能性がある。
- （4）名古屋地方気象台による1か月予報（令和8年8月20日発表）では気温は平年より高く、3か月予報（令和8年7月21日発表）では8月～10月の気温は平年並か高い見込みのため、本虫の発生を助長する。

3 防除方法

- （1）ヒノキ球果での本虫吸汁痕数をもとにした予測式（堤、2003）によるヒノキからの離脱予測日（果樹園への飛来予測日）は、9月3日～5日頃（地域により異なる）と予想される。ただし、吸汁痕数が最も多い地点（東部地域）での飛来予測日は8月26日頃と予想される。
- （2）なお、1か月予報では、気温は平年より高く、本虫の増殖が助長されることにより、ヒノキ球果を予測よりも早期に吸い尽くす可能性がある。これによりヒノキからの離脱が早まり、予測よりも早く果樹園へ大量飛来する可能性もあるため、最大限の警戒を払う。
- （3）静岡県病害虫防除所ホームページ「[害虫誘殺グラフ](#)」では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ球果の着果量や球果における寄生数、球果での吸汁痕数、果樹園への秋季以降の飛来予測日等）を随時提供しているので参照する。
- （4）これら最新情報を確認し、本虫の飛来が予想される場合には、ほ場の見回りをこまめに行う。ほ場で少数でも本虫の発生を確認したら、本虫が集合フェロモンを放出し大量飛来を招く前に、直ちに薬剤防除を行う。また、周辺ほ場への大量飛来がみられた場合、飛来前の予防的な薬剤散布を心掛ける。なお、本虫の移動範囲は広いと、地域での一斉防除が効果的である。また、ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や台風・暴風雨後の園地では、急激に発生が増加する場合があるので注意する。

- (5) 薬剤防除については、[「静岡県農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」](#)を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。
- (6) 不明な点については、病虫害防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。



図1 果樹カメムシ類とその被害果実

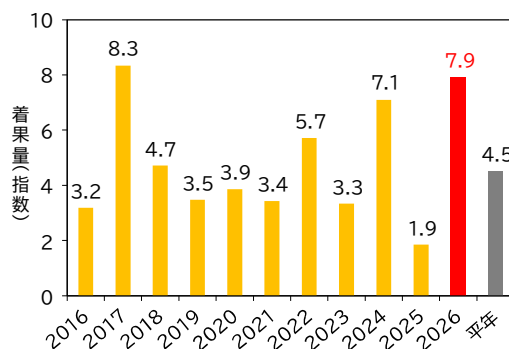


図2 ヒノキ球果の着果量

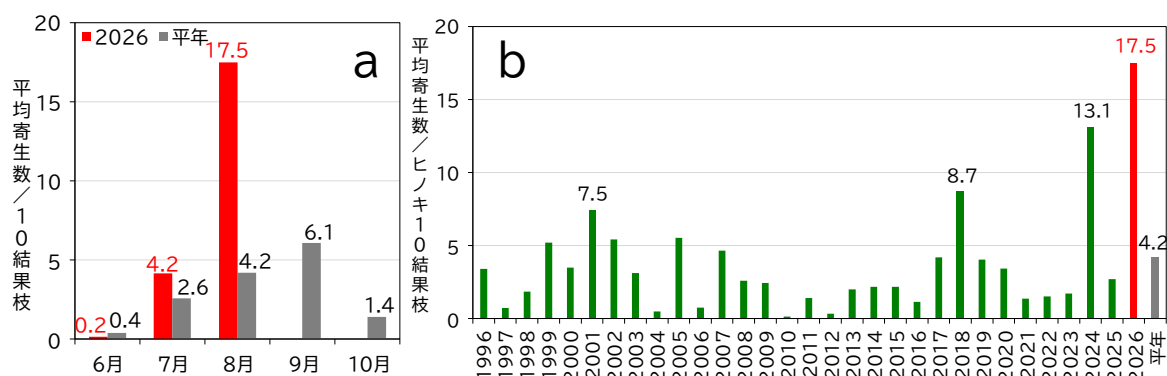


図3 ヒノキ球果における果樹カメムシ類の寄生数(a: 2026年 b: 年次別(8月))

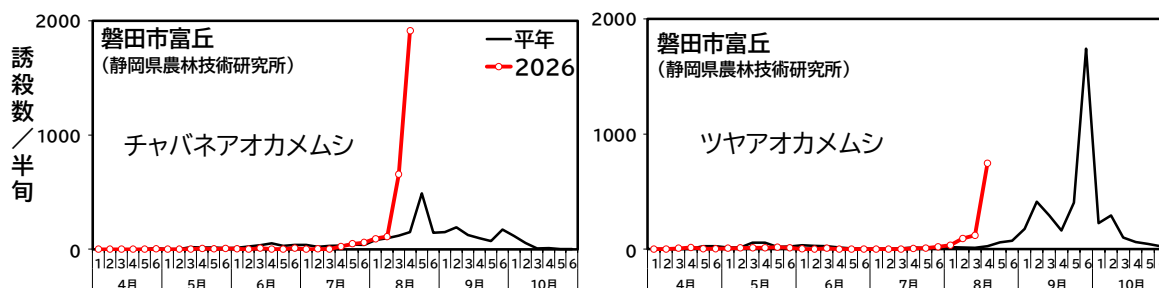


図4 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況(県内4か所のうちの抜粋)

【問合せ先】 静岡県病虫害防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

